

令和元年度第1回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日時	令和元年8月30日（金） 午後2時～午後3時30分
開催場所	滝川市役所3階 301会議室
出席状況	<p>【委員】</p> <p>出席：大崎委員、高瀬委員、栗井委員、石川委員、石谷委員、岡崎委員、高橋委員</p> <p>【事務局】</p> <p>市民生活部 浦川部長（委嘱状交付のみ出席）</p> <p>「 暮らし支援課 小畑課長、近藤課長補佐、本所係長、山本主任主事</p>
議事内容	<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状の交付</p> <p>3 市長挨拶</p> <p>4 委員長及び副委員長の選出</p> <p>委員より、委員長を大崎委員、副委員長を高瀬委員に推薦する提案があり、委員全員が賛成したことから、選出された。</p> <p>5 委員会の進め方等について</p> <p>委員会の進め方、環境市民委員会の条例などについて、事務局から説明を行った。</p> <p>6 年次報告書の作成及び公表について</p> <p>平成30年度の年次報告書の素案について、事務局から説明を行った。各委員からの意見などは次のとおり。</p> <p>【生活環境（身近な問題）】</p> <p>委員）：ごみの問題については、第2次環境基本計画策定時には見えなかった、生活スタイルや家族構成の変化、実家の家の片付けや終活等が年々増えており、減らしていくことはなかなか難しい状況になっていると思う。</p> <p>事務局）：確かに、昨年あたりから実家の片付け等で粗大ごみの片付けについての相談が増えている。</p> <p>特に、リサイクルショップでも処分できないような古い家具（花嫁ダンス）の処分についての問い合わせが多く、ごみが減らない理由の要因となっていると考えている。</p> <p>委員）：グラフだけでは見えない事情もあるので、今後目標数値の変更などもや報告書へのまとめ方についても考えていく必要があるのではないかと。</p> <p>事務局）：目標の修正や報告書の記載方法などについては、事務局でも検討していきたいと考えている。委員の皆様にも相談させていただくので、何かアイデアがあればご指導いただきたい。</p> <p>【地球環境（地球全体の問題）】</p> <p>委員）：省エネモニターはどのように公募しているのか。</p> <p>事務局）：ホームページや広報で周知している。また、消費者協会や国際ソロプチ</p>

ミストにご協力いただき実施している。

委員)：年間のCO2排出量を1%削減するのは、なかなか大変な目標だが、達成できているのは、消費者協会会員等の元々環境に対して意識の強い人がモニターになっていることが要因だと考えられる。一般の市民がモニターになると結果が違ってくると思うので、今後はより幅広い世代の人にモニターになってもらうような周知を検討していく必要があると思う。

委員)：街路灯だけではなく、関係施設のLED化が進んでいるのは素晴らしいと思う。

【自然環境・農業（自然・農業の保全）】

委員)：農業体験については、教育委員会と地域のコーディネータの方が学校と農家さんの間に入って来て、子ども達が農業に触れる機会を作ってくれており、大変感謝している。

農業体験の実施に関して、くらし支援課も教育委員会等と連携して何か行っているのか。

事務局)：農業体験については、教育委員会、農政が中心となって行っており、くらし支援課としては特に主導して何かを行うことはしていない。

委員)：自分の町の環境を知るために、NPO法人等と協力して、例えばどこかの小学校をモデル校にし、1学年全員に川下りを体験してもらうというような活動を企画してみてもおもしろいと思う。

川に触れたことにより、自分の町の地形や環境に気づき生まれるのではないか。

学校と教育委員会を結びつける役割を環境市民委員会ができたらいと思う。

委員)：とてもいい話だが、学校のカリキュラム等を考えるとすぐに実現するのは難しいと思う。

また、土地改良区等の他の団体も「川の生物を調べよう」という企画を小学校にもってきってくれる。いろいろな団体が別々に活動しているので、まずはそこを整理する必要がある。

委員)：学校でも、外部の講師をもっと活用しようという動きになっており、教育委員会が地域コーディネーターを活用して、人材データベースを作成している。

委員)：当別町では各学校で環境保全の取り組みを行っている聞いたことがある。滝川市にも「緑の少年団」というがあるので、今も活動をしているのであれば、活動内容を報告書に記載してもいいのではないか。

事務局)：活動内容や現在の状況について、農政課に確認してみる。

委員)：来年度から小学校の指導案が変わるので、小学校に相談するのであれば、いいタイミングかもしれない。

事務局)：くらし支援課だけで進められる話ではないので、教育委員会や地域コーディネーターの先生と情報を交換しながら、より良い形で進めていきたいと

思う。

【環境コミュニティ】

委員)：子どもを中心に取組んで行くのは、とてもいいアイデアだと思う。

子どもが興味を持ては、親も興味を持つことにつながる。

まずは、自分たちができることを家庭内に広めていくことが大切。

委員)：ヨーロッパで、地球温暖化防止の活動を広めるため、毎週1日学校を休んでストライキを行っている少女がいて、その活動が注目を集めている。

委員)：滝川市の環境教育は、行政主体から学校主体となってきており、非常によい方向になってきている。

事務局)：滝川高校も短大も、補助金がなくなっても自分たちの力でできるように工夫をしてくれている。

市としても、学校の取組を尊重しながら、可能な限りサポートしていく方向で考えている。

7 その他

(1) そらち WaiWai フェスタの開催について

(2) 二酸化炭素排出抑制対策補助金で行う事業内容について

(3) 令和元年度滝川市環境市民大会

(4) 次回の開催日程について

8 閉会